



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン内政：第9期国会議員選挙（2012年3月2日予定）をめぐる動き
（6日付ハムシャフリー紙ほか）

1. 6日付ハムシャフリー紙によれば、11月5日、第1回目の「原則主義派団結戦線（7+8委員会）」記者会見が、バーゲル・オルーム大学（宗教都市コムの子神学校系大学）において開催された。
 - (1) 「原則主義派団結戦線」のヴェラーヤティ報道官、モッタキー執行書記、ザーカーニー選挙本部長が出席した。
 - (2) ザーカーニー選挙本部長は、2011年11月17日に、「原則主義派団結戦線」の第1回集会が行われるとし、「各州での同戦線の選挙活動が開始された」と述べた。また、「我々（同戦線中央評議会）は、各州に関する決定を行わず、各地方都市（の選挙本部）が規則に基づいた（候補者）の選定を行う」と述べた。
 - (3) モッタキー執行書記は、「7+8委員会の構成は、最終的かつ決定的なものであり、いかなる変更も加えることができない」と述べた。

2. 一方、5日付エエテマード紙によれば、11月3日、OICホールにおいて、大統領支持派の集会が開催された。
 - (1) 2009年大統領選挙と2005年国会議員選挙時に、アフマディーネジャード大統領選挙本部で組織運営の責任を有していた大統領支持派を集めた集会が開かれ、大統領が演説した。同集会にプレスは招かれなかった。
 - (2) 同集会には、サマーレハーシェミー大統領上級補佐、ジャヴァーンフェクル・プレス担当大統領顧問、アミーリーファル大統領府文化評議会議長、モハンマドハサン・サーレヒーモラーム大統領室広報局長、モジュタヘドザーデ女性問題担当大統領顧問をはじめとする大統領側近が出席した。
 - (3) 大統領発言の概要
 - ・ 政府は、政府に対する全ての攻撃に対して沈黙を保ってきたが、この沈黙は永遠のものではない。革命の理想が危機に瀕すると感じられる時には、なすべきことは変わってくる。
 - ・ 「逸脱勢力」への批判に関し）一部の者たちは、我々が「ヴェラーヤテ・ファギーフ（イスラム法学者の統治）」を信じておらず、（隠れイマーム）の到来が近いと述べているとして、批判している。自分はそのようなことは言っていない。到来が近付けば近づくほど、最高指導者が必要であるという感情が高まる。
 - ・ （大規模横領事件に関し）一部の者たちが、最高指導者に対して事実と異なる報告をしていた。司法権長は2年にわたり、ラヒーミー第一副大統領を、経済腐敗の疑いで訴えてい

るが、これを証明することはできない。自分は最高指導者の下を訪れ、横領がもし事実ならば、TVで辞意を表明すると説明した。

- ・(大規模横領事件に関し拘束された) 中央銀行副頭取は、マシャーイー大統領室長の仕業であると言えば釈放すると言われたが、同副頭取は、同室長は無罪であると述べた。
- ・(モッタキー前外相の罷免に関し) モッタキー外相(当時)は、自分の大統領任期(第1期、第2期)のいずれにおいても、自分の(外相の)選択肢ではなかった。第2期目においては、特にそうだった。なぜなら、同時期に、4名のイラン人外交官が外国に亡命したからである。

中東調査会注

- ・9月、銀行から約26億ドル(約2千億円)を騙し取るという大規模横領事件が発覚し、マシャーイー大統領室長や複数の大臣の関与も指摘され、原則主義派の国会議員からは、大統領らの辞任を求める声も出た。事件の首謀者とされるアミール・マンスール・アーリヤー容疑者は、貿易会社や製鉄会社など様々な企業を買収し、ここ数年で事業を急成長させた富豪である。
- ・10月26日付マルドムサーラー紙によれば、モフセニー＝エジェイー司法権報道官が、同事件に関し、アミール・マンスール・アーリヤー投資開発社の関係者67名が取り調べを受け、31人が拘束されている、と述べた。
- ・モッタキー「原則主義派団結戦線」執行書記が、同戦線(7+8委員会)の構成について、「いかなる変更も加えることはできない」と述べている点は、ラーリージャーニー国会議長、ガリバーフ・テヘラン市長の代表が同戦線にいることを批判し、自らの分け前(代表者数)の増加を求めてきた「イスラム革命持続戦線」の要求が受け入れられず、依然として、「原則主義派」の分裂が継続していることを示している可能性がある。
- ・改革派系紙によると、大統領支持派の集会において、大統領は、「逸脱勢力」や「経済腐敗(大規模横領事件)」に関する政府への批判を完全に否定しつつ「(政府への攻撃に対する)政府の沈黙は永遠のものではない」と改めて強気な発言を行っており、大統領支持派内の結束および士気の向上を狙ったものと見られる。
- ・シーア派の一派、十二イマーム派は、12番目のイマームが現在、「お隠れ(ガイバ)」状態にあり、世界の終末にマフディー(救世主)として再臨する、と考える。故ホメイニー前最高指導者の「ヴェラーヤテ・ファギーフ(イスラム法学者の統治)」論とは、隠れイマーム再臨まで、イマームの有する統治権をイスラム法学者が代行すべきという主張。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799